

円形脱毛症の最新治療法

皮膚科部長 なかじま たけし
中島 武之

●円形脱毛症とは？

主に頭部に円形の脱毛斑^{だつもうはん}があれば容易に診断できます。その一方、円形脱毛症であっても典型的でない症状や、円形脱毛症に見えるそのほかの脱毛症もあります。

典型的な円形脱毛症は、頭部に突然生じるコイン大ほどの脱毛斑として気づかれます。ほとんどの場合、かゆみや痛みなどの自覚症状は伴いません。多くの場合は単発（単発型）ですが、時に多発する場合（多発型）や、眉毛やひげに生じる円形脱毛症もあります。また、特殊な病型として、生え際に帯状に脱毛斑が生じる蛇行型、頭部全体に脱毛が拡大する全頭型などがあります（図1）。

●診断のポイント

ほとんどの場合は視診で診断しますが、最近は拡大鏡（ダーモスコピー）を用いることで、より正確に診断ができるようになっていきます。診断のポイントは、病変部に切れ毛や根元に行くにしたがって細くなる毛があることや、新たに生えてきた産毛がみられること、脱毛のほか皮膚表面に異常がないこと、などです。

円形脱毛症と間違えられやすい脱毛症として、自分で毛を抜いて脱毛斑を生じる抜毛癖（トリコチロマニア）や、瘢痕性脱毛症^{はんこん}、術後脱毛症、感染症に伴う脱毛などがあります。多くの場合は拡大鏡などを用いることにより診断することは可能ですが、時に皮膚生検を行い、病理検査で診断する必要があります。

●多くはストレスと無関係

一般的に円形脱毛症はストレスが原因で発症すると思われていますが、円形脱毛症とストレスとの因果関係は証明されていません。現時点で円形脱毛症の原因は不明で、多くの場合、ストレスとは無関係に発症すると考えられています。

円形脱毛症では、リンパ球という免疫細胞が髪を作る毛包^{もうほう}を攻撃することで、成長期の毛包が障害され脱毛が起こる自己免疫説が最近では有力とされています（図2）。円形脱毛症はアトピー性皮膚炎や甲状腺疾患の患者さんに発症することがやや多いとされていますが、合併する疾患をもたない患者さんが大半です。

●いつまで治す

自然治癒が多い疾患であり、最も一般的に見られる単発型の円形脱毛症の場合、治療しなくても3～6か月間で治癒します。多発型や全頭型の場合でも自然治癒が見られるので、必ずしも治療を必要としないことも多いのですが、治癒が遅れる場合や病変が急速に拡大するような場合には、適切な治療を行うことが早期の治癒につながるかとされています。

病変が限られている場合には、副腎皮質ステロイドホルモンの外用や局所注射が有効です。ただし、治療が長期に及ぶ場合には、皮質ステロイドホルモンの副作用で皮膚が薄くなったたり毛細血管が広がったりすることがあるため、医療機関の定期的な受診が必要です。

図1 円形脱毛症の種類

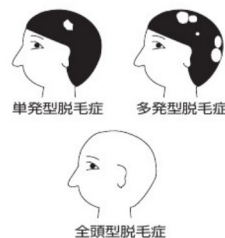


図2 円形脱毛症の原因

